

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	鈴木 雄司	経営	H2101005
	②	猪股 久美子	福祉	H2301111
	③	望月 俊彦	福祉	H2401035
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	烏山北小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	157-0061		
	所在地	世田谷区北烏山6丁目3番1号		
	TEL	03-3308-1634		
事業所代表者氏名	事務局長 上谷 哲雄			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 9 月 8 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 17 日			
自己評価結果報告日	2025 年 9 月 8 日			
訪問調査日	2025 年 9 月 18 日			
評価合議日	2025 年 9 月 18 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもが楽しく過ごし、行きたいと思えるような居場所</li> <li>2) 子どもが様々な遊びや学び、体験ができる居場所</li> <li>3) 子どもが安全で安心して過ごせる居場所</li> <li>4) 多様な子どもがお互いを尊重しあい、ともに過ごせる居場所</li> <li>5) 子どもが健やかに成長できる居場所</li> </ol>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 組織目標を理解している</li> <li>2 自分の役割をよく理解しお互い応え合いコミュニケーションがとれる</li> <li>3 お互いが人格を尊重し合い相互信頼関係がとれる</li> <li>4 「間違い・失敗を生かす」という指導・支援姿勢がとれる</li> <li>5 受容的・共感的な指導・支援ができる</li> <li>6 間違った言動をしっかり叱ることができる</li> <li>7 子どもの話をしっかり聞くことができ、子どもの良い点、できたことをしっかりほめることができる</li> </ol> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世田谷区が求める倫理をもとに高い使命感をもってほしい</li> <li>・信頼される公務員を目指し、全体の奉仕者という自覚をもとに、公務員の信用保持に努め、モラルの高い職場の維持に努める</li> </ul>

調査対象	登録児童全員を対象とした。
調査方法	Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数 151

	アンケート	聞き取り	計
共通評価項目による調査対象者数	151	0	151
共通評価項目による調査の有効回答者数	48	0	48
利用者総数に対する回答者割合(%)	31.8	0.0	31.8

**利用者調査全体のコメント**

調査対象者151名のうち、48名から回答を得ることができた。  
 満足度の高い項目として、「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「職員の接遇・態度は適切か」「学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか」「おやつ時間が楽しいひとときになっているか」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」などがあげられる。  
 総合的な満足度では、46名が「大変満足、満足」、1名が「どちらともいえない」、1名が「不満、大変不満」と回答している。また、「友達がたくさんできた」「体育館で遊べる時間を増やしてほしい」「学童にずっと通いたい」などのコメントがあがっている。

**利用者調査結果**

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか	42	5	1	0
42名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「友達と遊んだり、外遊びや体育館での活動が楽しい」「友達がたくさんできた」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	38	6	1	3
38名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「友達とのトラブルの際に先生が話を聞いてくれたり、仲直りに協力していた」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	40	5	1	2

40名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「友達と一緒に食べられて楽しい」「果物や空揚げの出る日は嬉しい」「学童で一番楽しい時間」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	24	12	1	11
24名が「はい」、12名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「イベントで作り方を教えてくれたから、また作りたい」「イベントなどまだ参加したことがない」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	36	8	0	4
36名が「はい」、8名が「どちらともいえない」と回答している。また、「廊下は右側を歩く、など説明があった」というコメントがあがっている。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	31	13	3	1
31名が「はい」、13名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。また、「おもちゃはマークがあるから片付けてある」「ブックエリアが片付いてないこともある」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	44	1	1	2
44名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。職員の接遇や態度が適切に保たれている様子が見える。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	47	0	0	1
47名が「はい」と回答している。体調不良時にも安心できる対応がなされている様子が見える。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	37	4	1	6
37名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「友達とトラブルがあった時に先生が丁寧に対応してくれた」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	39	4	1	4
39名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。子ども主体の姿勢が実践されている様子が見える。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	26	9	1	12
26名が「はい」、9名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「秘密はない」とのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	38	3	0	7
38名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。子どもの声に耳を傾け、改善が図られている様子がうかがえる。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	12	7	4	25
12名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」、25名が「非該当・無回答」と回答している。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float:right">○非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float:right">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える <span style="float:right">○非該当</span>
	カテゴリ1の講評	
	毎日のミーティングで前日の振り返りや当日の運営確認を行い、共通理解を図っている 理念や基本方針を職員と共有するため、毎日のミーティングで前日の振り返りや当日の運営確認を行い、共通理解を図っている。月一回の企画会では目標に則り、活動の振り返りと次月の計画確認を行っており、理念が日常的な実践に結び付けられている。また、入会説明会や新一年生保護者会、学童便りを通じて、利用者や保護者にも事業所の目指す方向性を分かりやすく伝えている。職員だけでなく家庭も含めて理念を共有するように努めている。クラブ全体で運営の方向性を共有し、日々の実践に活かすことができるようにしている。	
	リーダー層が年度当初の企画会で職務や役割を明示し、責任範囲を明確にしている リーダー層の事務局長らが年度当初の企画会で職務や役割を明示し、文書化して配布することで職員の責任範囲を明確にしている。また、日常的にも企画会を通じて方向性を提示し、年間計画や反省シートに基づき計画的な運営をしている。これらの取り組みが、職員各自の仕事における安心感や、自らの役割の理解にもつながっている。クラブ全体の方向性を共有するなかで、職員一人ひとりが役割を果たすことができるようにしている。	
	重要な案件について、所管課において審議・決定される手順があらかじめ定められている 重要な案件については、所管課において審議・決定される手順があらかじめ定められており、その内容は事務局長会や館長会を通じて全体に周知されている。さらに、館長から常勤職員へと説明や文書回覧が行われ、ミーティングや企画会で再度職員間で共有される仕組みが整っている。また、利用者や保護者に対しても、新BOP便りや学童クラブ便り、学童メールなどを通じて必要な情報が伝達されている。こうした周知体制を構築することで、職員や利用者が決定の背景を理解しやすくなり、組織運営に対する信頼性が向上している。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>保護者会や個人面談、運営協議会などの場を通じて情報を収集している</p> <p>利用者や地域の意向を的確に把握するため、保護者会や個人面談、運営協議会などの場を通じて情報を収集している。送迎時の対話でも保護者からの要望を把握している。また、職員の意向はミーティングや企画会での意見交換を通じて確認され、日々の運営に反映されている。さらに、事務局長会や地域懇談会、新BOP連絡協議会を通じて地域の福祉状況を把握し、行政からの情報も収集している。これらの情報は企画会で整理・共有され、課題を明確化している。多面的な情報収集と課題整理により、現実に対応を取ることができている。</p> <p>所管課が中心となり、中長期計画や単年度計画を策定し、予算編成も行われている</p> <p>所管課が中心となり、中長期計画や単年度計画を策定し、予算もそれに基づき編成されている。策定にあたっては、地域の福祉ニーズや利用者の意向を反映させるため、保護者会や職員会議で意見を収集している。クラブの理念やビジョンを現実的な計画に落とし込み、将来の方向性を見通した取り組みが可能となっている。さらに、年度ごとの企画会では月単位の活動計画を具体化し、子どもたちの生活や発達に直結する活動として実践されている。計画と予算が連動していることにより、運営の実効性が担保されている。</p> <p>計画の実行にあたり、ミーティングや企画会を通じて定期的に進捗状況を確認している</p>		

計画の実行にあたり、ミーティングや企画会を通じて定期的に進捗状況を確認し、必要に応じて修正を行っている。具体的には、半期や月単位で活動を振り返り、目標の達成度や課題を共有する場が設けられており、職員一人ひとりの役割や取り組みを明確にしながら実践が進められている。特に毎月のイベント企画では、子どもの意欲や保護者の意見を反映させつつ、多様なプログラムを計画的に実施している。計画を単なる文書にとどめず、日々の実践を通して具体化し、改善を積み重ねている。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

### カテゴリ3の講評

#### 法や規範、倫理を周知するため、年度当初の企画会や館長講話により確認を行っている

職員に対して社会人・福祉従事者として遵守すべき法や規範、倫理を周知するため、年度当初の企画会や半年に一度の館長講話を通じて確認を行っている。個人の尊厳を守る姿勢や福祉事業者としての基本的責任が繰り返し強調され、職員全体で理解が深められている。定期的な確認を重ねることで、日常の実践に反映されており、子どもや家庭に対して安心できる支援を提供する基盤となっている。クラブ運営の透明性と信頼性を高めることにつながっている。

#### 保護者会や個人面談を通じて苦情への対応や相談先を周知し、体制を整えている

保護者会や個人面談を通じて苦情への対応や相談先を周知し、利用者が意見を表明できる体制を整えている。また、意見や要望が寄せられた際には、所管課や児童館長へ報告し、必要に応じてミーティングや企画会で検討しており、組織的に速やかな対応が行われている。さらに、日々のミーティングでは職員の言動を振り返り、虐待防止の視点を共有しているほか、疑いがある場合には学校や子ども家庭支援センターと連携して早期対応を行う体制が確立されている。

#### 連絡協議会にて活動を報告し、地域住民や関係機関に理解を促している

新BOP便りや学童クラブ便りを通じて活動内容を広く公開し、クラブ運営の透明性を確保している。随時見学を受け入れているほか、連絡協議会にて活動を報告することで、地域住民や関係機関に理解を促している。また、ボランティアや実習生、小中学生の体験受け入れを行い、夏休みには教員研修の場としても機能している。さらに、移動児童館の実施や地域懇談会への参加、ケース会議や学校での児童理解夕会への出席を通じて、地域のニーズに応じた役割を果たしている。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>所管課の安全マニュアルに基づき、事故や感染症、災害等への対策を講じている</p> <p>所管課の安全マニュアルに基づき、事故や感染症、災害、不審者対応といったリスクを洗い出し、優先順位に応じて対策を講じている。具体的には、所管課の看護師による怪我や緊急時対応の研修を受け、学期ごとに火災・地震・不審者対応の避難訓練を実施している。また、施設内の消毒や感染症対応の周知も行われている。さらに、事業継続計画(BCP)が策定され、職員への読み合わせや保護者への配布物を通じて周知徹底を図っている。リスク管理を日常的な業務に組み込む姿勢は、子どもと保護者に安心感を与え、組織としての信頼性を高めている。</p> <p>事故や感染症、災害が発生した際に迅速に対応するため、再発防止策の検討を行っている</p> <p>事故や感染症、災害が発生した際に迅速に対応するため、事故報告書を作成・提出し、原因分析と再発防止策の検討を行っている。日常的に避難訓練を行うとともに、災害時や感染症対応に関する情報を保護者に配布して周知するなど、利用者を含めた周知徹底が図られている。また、職員同士でマニュアルを読み合わせることで理解を深め、非常時に円滑な対応ができるよう備えている。リスク発生時に確実な対応を行い、その後の再発防止策に反映している。</p> <p>所管課が定めた個人情報マニュアルに基づき、ミーティング等で職員に周知している</p> <p>個人情報を含む重要な情報を適切に管理するため、所管課が定めた個人情報マニュアルに基づき、ミーティング等で職員に周知している。入会申請書やアレルギー調査票、児童台帳などは、必要に応じて活用できるよう整理され、鍵付き書庫に保管されている。始業時や終業時には現物確認を行い、紛失や漏洩防止に努めている。さらに、個人情報保護法の趣旨に沿った規程と体制を整え、利用目的の明示や開示請求への対応も適切に行われている。</p>		

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			12/12	
評価項目1			事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2			事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当	
評価項目3			事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当	
評価項目4			職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			3/3	
評価項目1			組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当	

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

## カテゴリ-5の講評

### 事業の理念や基本方針を実現するため、必要な人材の確保に工夫を重ねている

クラブでは人材確保と配置に多様な工夫を重ねている。所管課が中心となり、全体の人員構成を把握しながら適正な配置を行う一方、現場では大学の学生課や地域のネットワークを活用し、プレイングパートナーとして学生や主婦を柔軟に採用している。月数回勤務可能な人材を取り入れることで、繁忙期や行事対応などに柔軟に対応できる体制が整えられている。また、所管課によるヒアリングや意向調査を基にした異動調整が行われ、職員の適性を踏まえた人員配置が行われている。多様な人材が協働し、子どもの生活と成長を支える環境が形成されている。

### 所管課が人材育成計画を策定し、職員はキャリアアップ研修に参加している

職員一人ひとりが将来的な役割を理解できるよう、雇用承諾書にキャリアパスの内容を明示し、説明を行っている。さらに、所管課が人材育成計画を策定し、職員はキャリアアップ研修に参加して報告を行い、スキル向上に努めている。館長は年度内に個人面談を実施し、到達度や意向を踏まえた育成計画を策定し、成果を次の研修に反映している。加えて、常勤職員への週一回のミーティングを通じて指導者への支援も行われ、組織的な育成に努めている。個人の成長と組織の方向性を結び付け、職員の意欲と専門性を高める努力をしている。

### 研修に参加した職員が内容を報告し、学びを組織全体で共有する仕組みが定着している

研修に参加した職員が内容を報告し、学びを組織全体で共有する仕組みが定着している。日々のミーティングでは、担当業務の振り返りや課題を出し合い、改善策を検討している。また、日々のシフトや役割を公平に分担し、チーム全体で課題解決に取り組む体制が整えられている。職員間での気づきや工夫を相互に活かし、互いの成長を促す文化が醸成されている。日常的なコミュニケーションを通じて、受容や共感を重んじる姿勢が良好な職場関係を支えており、サービスの質を高める基盤となっている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

子どもが多様な遊びを体験し、見通しを持って遊べる環境を整備することを課題とし、室内外の遊び場を工夫しながら、子どものニーズに応じた活動を実現することを目標とした。

【取り組み】

太陽の部屋では3学期から仕切りを外し、制作的な遊びやゲーム、身体を使う遊びを混在させ、多様な遊び道具を配置した。校庭では野球やサッカーの曜日を調整し、一輪車の日を新設するとともに、指導員が子どもの関心や発達段階に応じた遊びを準備するなど、柔軟な対応を行った。

【取り組みの結果】

室内では子どもの状況に合わせて多様な遊びが展開され、校庭では運動遊びの選択肢が広がった。特に一輪車の日や太陽の部屋での活動は子どもから好評を得ており、参加意欲の向上が確認された。

【振り返り・今後の方向性】

子どもに支持された取り組みを継続・発展させる方針を明確化し、太陽の部屋の利用日を雨天時だけでなく週1日に拡大した。一輪車の日も毎週設定するなど、好評な活動を定例化することで、子どもの主体的な遊びの選択肢を一層充実させている。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

クラブでは、子どもが多様な遊びを体験し、見通しを持って遊べる環境を整備することを重要課題とし、室内外の遊び場を工夫しながら、子どものニーズに応じた活動を実現することを目標として取り組んできた。  
 具体的には、太陽の部屋では3学期から仕切りを外し、制作的な遊びやゲーム、身体を使う遊びを混在させ、多様な遊び道具を配置することで子どもの状況に柔軟に対応できるよう工夫した。また、校庭では野球やサッカーの曜日を調整し、一輪車の日を新設するとともに、指導員が子どもの関心や発達段階に応じた遊びを準備するなど、柔軟な対応を行った。  
 その結果、室内外の遊びの幅が広がり、特に一輪車の日や太陽の部屋での活動は子どもから好評を得て、参加意欲の向上が確認された。  
 こうした成果を踏まえ、今年度は子どもに支持された取り組みを継続・発展させる方針を明確化し、太陽の部屋の利用日を雨天時だけでなく週1日に拡大し、一輪車の日も毎週設定するなど、好評な活動を定例化することで、子どもの主体的な遊びの選択肢を一層充実させている。

**評価項目2**

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

**前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)**

**【課題・目標】**

校庭と体育館を同時に開放し、子どもの多様な遊びニーズに応じた活動環境を整備することを重要課題として設定した。特に、屋内外の遊びの選択肢を広げ、活動の幅を保障することを目標とした。

**【取り組み】**

1学期は事務局長が体育館に常駐し、安全確保と運営調整を行いながら、校庭と体育館の同時開放を試行した。職員間で役割分担を明確にし、子どもの動線や安全管理を確認しつつ運営を行った。

**【取り組みの結果】**

配慮を要する子どもの増加により、安全確保の観点から2学期以降は同時開放の継続が困難となった。活動の充実よりも安全面の対応を優先した結果、運営体制上の課題が明確となった。

**【振り返り・今後の方向性】**

同時開放の課題を踏まえ、今年度は校庭と体育館を時間帯や学年ごとに分けて段階的に開放する方式へ転換した。前半は校庭、後半は体育館とするほか、体育館の利用を学年別に分けることで混雑を避け、安全でゆとりある活動環境を確保している。子どもからも好評を得ており、現場の状況に応じた柔軟な運営体制が成果を上げていると評価できる。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

**評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評**

クラブは、子どもの多様な遊びニーズに応えることを重要課題として掲げ、校庭と体育館の同時開放により活動環境の充実を図る方針をとっていた。1学期には事務局長が体育館に常駐し、安全管理を確保しながら試行を行うなど、職員間で役割分担を明確にし、組織的に実践を重ねた。

その結果、配慮を要する子どもの増加に伴い、安全確保を最優先とする判断から2学期以降は同時開放を見直したが、現場の実情を踏まえた柔軟な対応であった。課題を検証したうえで、今年度は校庭と体育館を時間帯や学年ごとに分けて段階的に開放する方式へ転換し、混雑を避けつつ、安全で落ち着いた活動環境を確保している。

こうした改善により、子どもが安心して遊べる場づくりが進み、保護者や子どもからも好評を得ており、課題を組織的に検証し改善策へとつなげた点が高く評価できる。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>4/4</b>
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している <input type="radio"/> 非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <input type="radio"/> 非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している <input type="radio"/> 非該当
	◎あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <input type="radio"/> 非該当
	サブカテゴリ-1の講評	
	<p>お便り等の配布や掲示により、保護者が必要な情報を確実に入手できる環境を整えている</p> <p>クラブでは、子どもや保護者に向けた情報を複数の媒体で提供している。毎月発行する「学童クラブだより」には行事予定や持ち物、申込期間などの重要事項を分かりやすく記載し、保護者に個別配布している。さらに、地域全体に向けた「新BOPのご案内」などを発行し、取り組みを広く伝えている。記事内容は常勤職員が中心となり、全職員が協力して作成し、施設内に掲示することでいつでも確認できる体制を整えている。こうした取り組みにより、利用希望者や在籍家庭が必要な情報を確実に入手できる環境を整えている。</p> <p>配布資料と説明会を組み合わせ、段階的に分かりやすく、保護者に情報を提供している</p> <p>クラブでは、子どもや保護者向けの配布資料に大きな文字やルビを用い、写真やイラストを加えることで視覚的に理解しやすい工夫をしている。入所説明会では募集要項に基づき、学校と協力して新一年生保護者会に参加し、事業内容を丁寧に説明している。また、就学時検診の際には区の案内資料と学童クラブ独自の資料を配布し、保護者に必要な情報を漏れなく伝えている。さらに、年度末には学童独自の説明会を開催し、提出書類や利用の流れを整理した案内やしおりを配布するなど、段階的で分かりやすい情報提供を行っている。</p> <p>クラブの情報を関係機関に伝え、学校と協力することでクラブ運営への理解を得ている</p> <p>クラブでは、行政や学校、地域関係者に対しても学童クラブ事業に関する情報提供を行っている。クラブだよりや利用のしおりは、保護者だけでなく、校長や教職員、PTAを含む連絡協議会の委員にも配布し、学童の活動を広く周知している。こうした情報提供を通じて学校との協力関係が深まり、児童館や民生委員、町会関係者にも情報が共有されている。子ども祭りでは保護者が模擬店に出店するなど、地域住民や保護者の参画の輪が広がっている。これらの取り組みにより、事業の情報が関係機関に適切に伝わり、学童クラブの理解につながっている。</p>	

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>保護者への丁寧な説明などにより、新一年生が学童生活を円滑に開始できようとしている</p> <p>クラブでは、サービス開始にあたり新一年生や保護者を対象に説明会を開いている。配布資料や職員の説明を通して、利用上の基本ルールや安全面の約束事を丁寧に伝えている。特に負担金や利用手続きといった重要事項は、保護者に分かりやすく説明し、質問にもその場で答えるなど、理解と協力を得るように配慮している。また、子どもたちが帰る際の経路については、学校の通学路に準じて案内し、時間ごとにまとめて校門から帰宅する方法を取り入れている。こうした配慮が、子どもと保護者が落ち着いて学童生活を始められる環境づくりにつながっている。</p> <p>保護者の意向や子どもの基本情報を確認し、安全な学童生活を開始できるようにしている</p> <p>クラブでは、入所申請の際に、区で統一している書式に、保護者の意向や子どもの配慮事項、緊急連絡先などを記載してもらい確認している。特に食物アレルギーや健康状態に関する情報については、学校の生活管理指導票も参考にしながら基本情報を把握し、全職員で共有する体制を整えている。また、保護者からの「友達との関わりに配慮してほしい」といった要望を個別面談でも把握し、日常の援助に反映するようにしている。こうした情報の把握と職員間の共有の仕組みにより、子ども一人ひとりの状況に応じた安全で安心な学童生活の開始を支えている。</p> <p>新一年生に親しみある遊びや環境を提供し、学童生活に早く馴染めるように支援している</p> <p>学童クラブでは、新一年生が利用を始める際に感じる不安や戸惑いを和らげるため、馴染みのある友達との関わりを起点に遊びを通して交流を広げている。職員の見守りの中で、徐々に遊びの輪を広げられるよう声かけや配慮を行っている。また、ブロックや砂遊びなど子どもが親しんできた遊びを準備し、自由に選択できるようにしている。子どもの興味や変化は職員間で共有し、一輪車など人気の遊びは活動機会を増やして柔軟に対応している。こうした工夫により、子どもが安心して学童における生活に早く馴染めるよう支援している。</p>		

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 10/10

**評価項目1**  
 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している 評点(0000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当

**評価項目2**  
 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当

**評価項目3**  
 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

**多様な活動を柔軟に展開しつつ、理念を日常の支援に結びつける取り組みが期待される**  
 クラブでは、区統一の新BOP学童クラブの考え方にに基づき、その基本的な方針を掲示することで、子どもと職員が共通の意識を持てるようにしている。年間計画は行事やイベントを中心に構成され、運動や制作活動、伝承遊びなど、多様な体験をバランスよく組み込んでいる。また、子どもの反応や季節の流れを踏まえ、職員が柔軟に調整を図っている。ただし、個々の子どもの発達や集団の状況に応じた具体的な育成目標や支援計画までは十分に整理されていない。今後は、理念を日常の支援へ結びつける取り組みや仕組みづくりが期待される。

**日誌やミーティングでの記録を活かしつつ、支援の一貫性を高める体制づくりが望まれる**  
 クラブでは、日々の出来事を支援日誌やミーティングの記録に残し、欠席者や後日振り返る際に役立て、記録の実用性を確保している。子ども一人ひとりの特性や課題についても、必要に応じて学校や家庭からの情報、巡回指導員の助言を取り入れながら子どもへの理解を深めている。しかし、子どもごとの個別ファイルや継続的な支援記録は整備されておらず、配慮が必要な子どもの変化や支援経過を長期的に追いきい面がある。今後は簡便に記録できる方法を工夫し、体制の調整を進め、支援の一貫性を高めることが望まれる。

**専門的助言や意見交換の記録を整備し、支援ノウハウを蓄積していくことが期待される**  
 クラブでは、ミーティングを通じて子どもの様子や支援方法を職員間で共有している。特に配慮が必要な子どもについて、状況の変化をもとに課題や対応を話し合い、次にどう関わるかを全員で確認する流れを作っている。また、学校や心理巡回指導から得た助言を共有することで対応の幅を広げ、日々の支援に活かしている。会議の進行は常勤職員が担い、事務局長も必要に応じて補足することで積極的な意見交換ができるようにしている。今後はそうした助言や話し合いの記録を整備し、支援ノウハウの組織的な蓄積につなげていく工夫が期待される。

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p><b>保護者同意の徹底と日常支援での配慮により、子どものプライバシーを確実に守っている</b>  クラブでは、子どもに関する情報を外部とやりとりする際には、必ず保護者の同意を得る仕組みを整えている。特に写真の取り扱いについては、原則として後ろ姿を撮影し、顔が写る場合は修正やぼかしを加えるなど、個人が特定されない工夫が徹底されている。また、日常の援助においてもプライバシーに配慮し、男女を区別しない呼称の使用や、子ども全員に「さん」付けで呼ぶなど、尊重した対応が行われている。さらに、退職後も含め職員やプレイングパートナーに個人情報保護を徹底する姿勢が示されており、組織全体でプライバシー保護に努めている。</p> <p><b>言葉を丁寧に受け止め、価値観の共通点に注目し、子どもの最善の利益を守っている</b>  クラブでは、日常の援助の中で子ども一人ひとりを大切にしている姿勢が示されている。トラブルが起きた時には、子どもの言い分を最後まで丁寧に聞き取り、共感をもって受け止めることで安心感と信頼につなげている。職員は基本情報や日々のミーティングを通じて特性や支援の工夫を共有し、継続的な理解に努めている。また、保護者や子どもの価値観や生活習慣の違いについても、相違点だけに注目せず、共通する部分を大切にしている姿勢で関わっている。こうした取り組みを通じて、子どもの意思を尊重し、最善の利益を守る支援を一貫して進めている。</p> <p><b>ルール確認や良い行動の評価を通じて、暴力やいじめを防ぎ安心できる環境を作っている</b>  クラブでは、子ども同士の暴力やいじめを未然に防ぐために、日常の中でさまざまな工夫をしている。特に勝ち負けにこだわる子どもが多いことを踏まえ、活動の前にルールを確認し合い、違反や不公平感からトラブルが生じないよう配慮している。また、競技や遊びの中で見られる良いプレーを褒めることで、勝敗以外の価値に気づけるようにしている。さらに、気の合わない子ども同士が関わる際には職員が注意深く見守り、トラブルの兆しがあれば早めに声をかけている。こうした取り組みによって、子どもたちが安心して過ごせる環境の維持に努めている。</p>		

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリー6の講評			
<p><b>学校の避難訓練に準じた年3回の訓練と振り返りにより、安全な体制を整備している</b></p> <p>クラブでは、児童課や教育委員会が作成したマニュアルを活用し、火災・地震・不審者をテーマにして、それぞれの対応を想定した避難訓練を年3回行っている。訓練内容は学校の避難訓練に準じており、一貫した対応をとることができるように計画している。さらに訓練後には、職員全員が参加するロングミーティングを活用して振り返りを行い、改善点を話し合うことでマニュアルの実効性を高めている。こうした積み重ねにより、非常時にも落ち着いて対応できる体制をつくり、子どもの安全を守るための基盤としている。</p> <p><b>事故や怪我を確実に記録し迅速な保護者との共有により、信頼と安全対策を強化している</b></p> <p>クラブでは、事故や怪我が発生した際には「傷害カード」に詳細を記録し、保護者への連絡内容や対応経過を確実に残す仕組みを整えている。この取り組みは長年にわたり継続されており、情報を迅速に共有できる点で安全対策の柱となっている。カードは日誌や記録に貼り、ファイル化され職員がいつでも確認できるため、過去の事例を参考にした対応や予防策につなげることができる。また、こうした丁寧な記録と情報共有は、保護者の安心感を支え、信頼関係の強化にもつながっている。事故予防と信頼形成を両立させた取り組みを進めている。</p> <p><b>危険予測の共有と子どもと保護者の意見反映により、サービスの質の向上が期待される</b></p> <p>クラブでは、子どもたちの安全を守るため、日常の中で職員が危険を感じたことを共有し、ミーティングで改善策を話し合っている。職員はミーティングを通じて「危ない」と感じた点を即時に報告し改善策を協議しており、小さな気づきを蓄積することで大きな事故を未然に防ぐよう取り組んでいる。また、保護者への連絡は、漏れや遅れがないよう常に記録化し確認し、対応に注意を払っている。今後はこうした取り組みに加え、子どもや保護者の意向をより多く運営方針や目標に反映する仕組みを整え、サービスの質の向上が期待される。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		29 / 29	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>保護者からの聞き取りや職員連携により、子どもの個性に応じた支援体制を整えている</p> <p>入会申請の段階から保護者への聞き取りを通して、子どもの発達状況や個別の特性を把握している。日常の支援においては、職員が遊びを見守り、プレイングパートナーによる遊びの支援など、必要に応じて援助することで、子ども同士が協力し合いながら遊びを深められるようにしている。また、障害のある子どもについては、職員間でハードルとなる状況を共有し、見守り担当者を配置するなどの個別的な支援体制が構築されている。日々のミーティングやインカムを活用した情報共有により、子どもの状況に即応できる体制が確立されている。</p> <p>トラブル時はクールダウンを行い、安心感を与えつつ学びや気づきに生かしている</p> <p>集団生活で起こる子ども同士のトラブルには、受容と共感を大切にした対応が行われている。職員は双方の話を丁寧に聞き取り、経過や原因を明らかにしたうえで、互いに振り返るべき点を考えさせ、次につながる学びとなるよう支援している。感情が高ぶった場合には別室に移してクールダウンを図り、落ち着いた雰囲気の中でお茶を飲みながら話を聞くなど、安心できる環境を整えている。こうした関わりを通して、子どもが自ら気づきを得られるよう促し、発達や良好な関係づくりを支えている。</p> <p>遊びやミーティングで自主性を尊重し、トラブル防止や規範意識を育てている</p> <p>日々の活動では、遊びの選択肢を広げることで子どもの自主性を尊重し、トラブルを未然に防ぐ工夫が行われている。また、職員間では毎日のミーティングを重視し、共通理解を深めながら支援方法を検討している。一方で、子どもが相手をおおる行動を取ったり、自己中心的な言動をしたり、ルールを守らないことによるトラブルが見られる場合もある。今後は個別支援に加え、集団全体でルールや相互尊重を意識できる取り組みや、子ども自身が主体的に規範意識を身につけられる工夫をさらに進めることに期待したい。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>子どもの希望を尊重しつつ遊びを工夫し、主体的な活動と発達支援を行っている</p> <p>子ども一人ひとりのニーズや学年に応じた発達段階を把握し、多様な遊びや活動を提供する工夫がなされている。職員は日常の会話や学年ごとの聞き取りを通じて子どもたちの関心や希望を把握し、個々のやり取りやグループ単位で情報を収集している。遊びの内容は主に子どもから提案され、場所や時間は子どもたちの希望を尊重しつつ職員が調整している。これにより、子どもが主体的に活動を選べる環境が整えられ、児童期にふさわしい遊び経験を積み重ねつつ、個々の発達支援と充実した遊び環境の提供がされている。</p> <p>多様な遊びや部屋を活用し、子どもが主体的に学び合える環境を整えている</p> <p>製作的な遊びや読書、ブロック、ゲームなど多様な遊びと、太陽・月・星の各部屋が用意されており、掲示板で活動内容や場所を知らせることで、子どもたちが自分で選び主体的に遊べる環境が整えられている。日常の遊びでは、子ども同士が協力し合いながら楽しさを体験できるよう配慮されている。また、体育館や校庭では異学年が交流できる集団遊びを取り入れ、ドッジボールや王様陣取りなど、人気のある遊びをしている。これらの取り組みにより、子ども同士が互いに影響し合い学び合う環境が整い、集団全体の生活が豊かに展開されている。</p> <p>基本的な生活習慣を支援しつつ、子どもが主体的に経験できる環境を整えている</p>			

挨拶や後片付け、手洗いなどの基本的な生活習慣を促すとともに、学校の週生活目標を掲示し、連携して習得を支援している。例えば「廊下を歩こう」という目標を意識し、学童でも移動時に歩くよう声をかけ、事故防止に努めている。雨天時や一日育成時には映画会を実施するなど、状況に応じた柔軟な対応も行っている。日常の遊びや生活の中では、友達への言葉かけや挨拶の場面を捉えて声をかけたり認めたりすることで、子どもの意欲を高めながら基本的な生活習慣の定着を支援している。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目3の講評			
<p><b>運動や制作、季節行事を通し、子どもが主体的に関わり成長している</b></p> <p>毎月、ドッジボールやバドミントンなどの運動や、うちわづくりやペン立てづくりなどの制作を中心に多様なイベントを企画し、子どもたちの発達段階やニーズに合わせた内容を取り入れている。また、季節の行事も取り入れ、楽しめる工夫を行っている。行事では、職員が大まかな内容を示したうえで、子どもたち自身が企画や準備、当日の進行を担当する仕組みを整えている。活動を通して協力する力や思いやり、コミュニケーション能力の育成につながっている。子どもの発想や意外なアイデアを大切にすることで、新たな発見や成長の機会も生まれている。</p> <p><b>子ども祭りで子どもと保護者が協力し、主体性や交流の力を育んでいる</b></p> <p>子ども祭りなどの大規模な行事では、体育館を全面的に使い、保護者や子どもも企画に参加できる体制が整えられている。子どもたちは輪投げや射的などのお店の内容を考え、職員と一緒に準備や案内、司会を担当することで、自分で考え行動する力を育んでいる。また、保護者が企画するイベントやお店の出店も取り入れることで、家庭とのつながりが深まり、子どもが安心して活動に参加できる環境が整えられている。行事を通して、子ども同士の交流やチームづくりも自然に促され、仲間との関わりや協力の経験が豊かに育まれている。</p> <p><b>子どもが意見を出し合い主体的に活動し、協力や思いやりを育む行事が実施されている</b></p> <p>子ども同士が意見を出し合いながら活動を作る機会を設けることで、自然に主体性を引き出す工夫がなされている。職員は子どもたちの意見にしっかり耳を傾け、新しい発想を取り入れることで、思いやりや協力の心を育む場をつくっている。また、日常活動の中でチームづくりや役割分担を経験することで、優しい気持ちが生まれたり面倒見がよくなるなど、社会性や責任感も育まれている。さらに、保護者の協力を得ながら行事を運営することで、子どもたちが安心して多様な体験に取り組める環境が整い、行事の目的や効果が十分に発揮されている。</p>			
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している		○非該当
評価項目4の講評			
<p><b>声かけや掲示で活動の見通しを示し、子どもが安心して主体的に遊べるよう支えている</b></p> <p>友だちと仲良く遊べることを目標に、日々の関わりを工夫している。掲示板に遊べる場所や遊びの内容、時間を示すことで、子ども自身が活動を選び、主体的に過ごせる環境が整えられている。関心に応じた遊びを選べる仕組みにより、自分で考えて行動する力が生まれ、仲間との交流を通して協力や思いやりの気持ちも自然に育っている。また、学童クラブに来る意味や目的は子どもによって異なるため、家庭との連携や丁寧な声かけ、日々の観察を通して、一人ひとりの気持ちに寄り添った支援が行われ、子ども主体の生活づくりが日常的に実践されている。</p> <p><b>活動内容に応じた部屋や仕切りで、子どもが過ごせる環境を整えている</b></p> <p>室内環境も工夫されており、活動内容に応じて快適な場所が設定されている。広い場所が必要な遊びや、制作・読書・映画などの部屋の使い方を分けることで、子どもが活動できる空間が整えられている。それぞれの部屋には机やイス、おもちゃなどが活動に応じて準備されており、子どもたちの活動を支えている。また、卓球など活発な遊びの際には仕切りを設け、異学年交流の活動では体育館全面を使用するなど、活動の特性に合わせた環境づくりがなされている。これにより、子どもたちは安心してさまざまな体験に取り組むことができています。</p> <p><b>子どもの自主性を尊重し、安全に配慮した環境で主体的に活動できる場を整えている</b></p> <p>異なるグループや学年の子どもたちが一緒に活動できるよう、場所や時間、担当職員を調整している。日々の観察や子どものつぶやきに耳を傾け、共有や関わりを大切にしている。また、理想を押し付けるのではなく、子どもの自主性や選択を尊重する意識が職員間で共有されている。ドッジボールやバドミントン、フラフープ、バランスボールなど多様な運動に対応するため、ネットやカラーコーンで区画を分け、安全面にも配慮している。これにより、子どもたちは主体的に活動に参加しながら、クラブでの生活を送ることができています。</p>			

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
◎あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
◎あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p><b>学校と連携し、施設活用や情報共有により、子どもが安全に過ごせる環境を整えている</b></p> <p>学校と連携を図り、事務局長は児童理解夕会への出席や副校長との毎日の連絡を通じて情報を共有し、必要に応じて担任と常勤職員も連携している。また、学校施設を借用することで活動場所を広げ、子どもがのびのびと過ごせる環境を整えている。学校での不安や生活環境上の課題を抱える子どもについても、情報共有や相談を通じてきめ細かく支援することが可能である。同じ学校の子どもに対して、学童クラブと学校が一体となって健全育成に関わることで、日常生活の連続性が保障され、子どもが安心して学童生活を送れる環境が確保されている。</p> <p><b>学校施設を活用し、子どもが多様な活動に取り組める環境をつくっている</b></p> <p>同じ学校の子どもたちの活動について、学童クラブと学校が情報を共有する体制が整っている。教室や特別教室など学校施設を活用することで、クラブでの活動と学校生活との接続がスムーズになり、子どもたちが両方の場で安心して過ごせるよう工夫されている。ランチルームを借用して夏休みに映画会を実施したり、保護者会や入会説明会時にも施設を活用するなど、活動の内容や範囲を広げる工夫も見られる。このように、クラブと学校が連携することで、子どもが多様な活動に安全に取り組める環境が整えられている。</p> <p><b>研修や情報共有で連携を深め、信頼関係の中で子どもが安定して過ごせるようにしている</b></p> <p>職員研修で得た支援方法や実践例はクラブ内で共有され、日々の支援に活かされている。また、担当課による巡回指導や専門機関の職員による支援の機会もあり、子どもの日常の状況に応じた具体的な助言を受けることができている。さらに、子ども家庭支援センターや担当課との情報交換を通じ、課題を抱える子どもへの支援が計画的に行われ、職員間でも共通理解や対応方針が共有されている。このように、学校や関係機関と連携した支援体制により、子どもが安心して学童生活を送れる環境が整えられている。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p><b>子どもが安心しておやつを楽しめるよう環境を整え、生活リズムや安全に配慮している</b></p> <p>子どもが落ち着いておやつを楽しめるよう、場所や時間を定めて穏やかな雰囲気づくりに努めている。おやつの時間は、学校の給食や家庭での夕食との間隔を考慮して設定されており、子どもの生活リズムに寄り添った工夫が見られる。また、アレルギーのある子どもには複数の職員が内容を確認し、安全に配慮して提供している点も丁寧である。「第2の家庭」としておやつの時間を大切に、気持ちを落ち着けたり、友達と楽しく過ごしたりできる場となっている。安心できる環境の中で過ごすこの時間は、子どもの心の安定にもつながっている。</p> <p><b>子どもが自分のリズムでおやつを楽しめるよう配慮し、自主性の形成を促している</b></p> <p>おやつの時間を一律に定めず、1時間ほどの時間帯の中で、それぞれが自分のタイミングでおやつをとれるようにしている。この工夫により、子どもが自分のペースで過ごし方を考えながらおやつを楽しむことができ、自主性や自己管理の力を育む機会となっている。また、区から届くおやつを基に献立を立て、日々の内容に変化を持たせている点にも工夫が見られる。おやつの時間は、友達との会話が自然に生まれる穏やかなひとときとなっており、子どもにとって楽しい時間になっている。</p> <p><b>学校施設や空間の工夫により、おやつの時間を快適な場に行えることが期待される</b></p> <p>現在は、部屋の一部を仕切っておやつのスペースを設けているが、今後はもう少し落ち着いて過ごせる環境づくりを進めていくことが望ましい。たとえば、学校のランチルームなどを活用し、椅子に座って音楽を聴きながら、家庭的であたたかい雰囲気の中でおやつを楽しめるようにすることも考えられる。こうした工夫により、子どもたちがよりリラックスして過ごせる時間となり、友達との関わりや心の安定にもつながっていくと期待される。これまでの取り組みを生かしながら、環境づくりによっておやつの時間がさらに豊かなものになることが期待される。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>注意や点検、記録の共有を通し、子どもが安全に過ごせる環境づくりが行われている</b></p> <p>遊ぶ前に注意点を伝え、怪我が起こりそうな場所の点検を行っている。また、遊具のチェックリストを活用し、日々の安全管理を行い、その内容を毎日日誌に記録している。夏休み初日には、けがをした場合は必ず大人に伝えるよう子どもたちに伝え、日常から安全に気を付ける意識を育てている。加えて、担当課からの看護師通信を活用し、感染症や嘔吐時の対応など日常の安全対策に生かしている。これらの取り組みは職員間で共有され、振り返りを通じて次回以降の安全対策にもつながっている。</p> <p><b>傷病カードや情報共有を通し、子どもの健康を把握し、安全対応を支えている</b></p> <p>子どもがけがをした場合、学童クラブでは迅速かつ適切に対応できるよう、傷病カードや日誌を活用して記録を徹底している。特に首から上のけがについては、軽くボールが当たった程度であっても必ず記録し、状況を事務局長と児童指導が確認したうえで保護者に連絡し、家庭との情報共有を欠かさない。また、終わりのミーティングではその日の傷病カードを読み上げ、全職員で内容を確認し合うことで、対応の統一や注意喚起を図っている。職員一人ひとりの安全意識が高まり、日々の支援の中でより丁寧で確かな対応が行われるようになっている。</p> <p><b>専門機関や保護者との連携を生かし、子どもの健康を守る環境を整えている</b></p> <p>けがや健康面で判断に迷う場合、クラブでは専門機関に相談できる体制を整え、適切な判断と対応ができるよう努めている。受診が必要な際には、保護者にかかりつけ病院の有無を確認し、速やかに必要な医療につなげている。また、職員間で事例を共有し、日々の振り返りを通して事故やけがの要因を分析し、再発防止に向けた対策を検討している。こうした専門機関や保護者との連携を含む安全管理体制により、子どもの心身の健康を守る支援行われている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>連絡アプリの活用や学校との連携により、保護者の状況を把握し、対応を図っている</b></p> <p>クラブでは、保護者の就労や多様な家庭状況に応じて柔軟に対応し、安心して子育てと就労を両立できるよう支援している。子どもの帰宅方法や退所時間については、一人帰りや迎えの有無を含めて丁寧に確認し、欠席や変更があった場合には連絡アプリや電話により迅速に家庭と確認を取っている。さらに、学校と連携し、通学路での道草や安全面の課題があれば情報を共有し、子ども自身が危機管理の意識を持ち、自己管理能力を高められるよう支援している。事情や状況を踏まえた、きめ細やかな保護者対応を図っている。</p> <p><b>保護者会の開催と父母会への協力により、安心して利用できる学童クラブを作っている</b></p> <p>クラブでは、4月のBOP保護者の説明会や年2回の学童クラブの保護者会を開催して、活動内容の説明や相互理解を深める機会を設けている。7月のクラブの保護者会では父母会の紹介も行っている。また、必要に応じて父母会からの案内や資料配布に協力するなど、活動を支援している。近年はコロナ禍の影響で父母会活動は有志の保護者による運営が中心となっているが、クラブとしては活動を尊重し、保護者の自主的な取り組みを支えている。こうした取り組みが、保護者同士のつながりを維持し、学童生活を支え合う基盤づくりにつながっている。</p> <p><b>電話や面談の会話を通じて保護者との信頼関係を築き、安全確保と共通認識を図っている</b></p> <p>クラブでは、面談や送迎時の会話を通じて子どもの様子を丁寧に伝え、保護者と職員の信頼関係を築いている。子どもの状況については、情報が食い違わないよう複数の連絡手段を照合し、保護者と共通認識を持てるよう工夫している。特に出欠席や帰宅方法の変更時には電話での確認を優先し、不審者への対応も想定しながら安全を確保している。また、登退所時間の変更が多いため独自の確認表を作成し、記録内容を確認し、迅速かつ確実な対応を可能にしている。こうした取り組みにより、保護者が安心して子育てをすることができるよう支援している。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>学校や児童館との連携に加え、さらに地域の人との交流を広げる取り組みが期待される</p> <p>クラブは学校との連携を基盤に、年度当初に配慮が必要な子どもの情報を把握し、担任との連絡会や設備の利用調整などを通じて、子どもが安心して遊べる環境を整えている。また、児童館との結びつきも大切にしており、出前児童館の活用、交流ドッジボール大会やこどもまつりなどに参加し、子どもが地域の人と楽しく触れ合い、多様な体験を積み重ねられるように取り組んでいる。こうした取り組みは子どもの生活の広がりにつながっている。今後はさらに、地域の資源を掘り起こして新しい交流の場を広げていくことが期待される。</p> <p>児童館のこどもまつりやPTAによるイベントなどを通じて、地域との交流を深めている</p> <p>クラブでは、児童館のこどもまつりや学校のPTAによるイベントなどへの参加を通じて、地域の子どもや大人と笑顔で交流する機会を得ている。記録や日誌には、参加者数や当日の様子が記され、子どもの創意工夫の発表の場となっていることがうかがえる。また、保護者からの協力では、おもちゃの寄付が年に数回寄せられ、地域の温かい支援も受けている。一方で、クラブ自らが地域の方を招いて交流を広げる機会は限られている。今後は地域の方の特技や関心を取り入れ、双方向の関わりを広げる工夫を検討していくことが期待される。</p> <p>連絡協議会や児童館との連携に加え、子どもの活動の選択肢の広がりが期待される</p> <p>クラブは、新BOP連絡協議会に参加し、保護者、青少年委員、行政と情報を交換することで、地域と協力しながら子どもの育ちを支えている。また、児童館職員との交流も重ね、出前児童館や行事を通じて子どもが安心して地域と関わる機会を大切にしている。これらの活動は、子どもに多様な体験を届けると同時に、地域の理解やつながりを深める機会となっている。一方で、日常的に地域住民を招く場はまだ少ないため、読み聞かせや特技披露などの活動を取り入れることで、子どもの活動の選択肢がさらに広がることを期待される。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	校庭や体育館を時間を定めて活用できる体制が整い、子どもの活動の幅が広がっている	
内容①	クラブでは、学校との連携を深めることに力を注いできた。当初は事務的な対応にとどまっていたが、経験を重ねる中で相互理解が進み、現在では施設面・運営面において柔軟かつ協力的な関係が構築されている。校庭や体育館を時間を定めて活用できる体制が整い、子どもの活動の幅が広がっている。また、地域開放の一環として設けられたスペースを児童館的な機能をもつ場として活用し、子どもの生活を豊かにしている。さらに、局長が学校の会議に参加し、報告や発言を行うことで信頼関係を深め、教育と放課後支援が一体となる体制を築いている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-4	子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている
タイトル②	多様な遊びと場所の選択肢を整え、子どもが主体的に活動し自律性や生活力を育てている	
内容②	自由遊び・集団遊び・工作・卓球・ボードゲーム・ブロックなど多様な遊びの選択肢を豊富に用意するとともに、クラブ室、体育館、校庭、星・月の部屋等の場所を活用し、子どもが自ら遊びや活動を選択できる環境を整えている。一日の流れはボードにて、子どもたちにわかりやすく掲示されている。おやつには幅を持たせ、子ども自身が決められる仕組みとすることで、遊びが中断されず主体的な活動が可能となっている。子どもの主体性や自律性が尊重され、生活が楽しく快適になるとともに、卒後後の生活においても生かせる力を育てている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	保護者の理解を深め、家庭との連携を通じて、信頼関係を深めながら子育てを支えている	
内容③	クラブでは、保護者との連携を重視し、安心して利用できる環境づくりに力を入れている。連絡アプリや電話を活用した出欠確認や連絡体制により、迅速で確実な情報共有に取り組んでいる。また、面談や送迎時の会話を通じて子どもの様子を丁寧に伝え、家庭と職員が共通理解を持てるようにしている。さらに、説明会や保護者会の開催を通じてサービスの説明や相互理解を深め、父母会の自主的な活動も支えている。こうした多面的な連携の積み重ねにより、信頼関係を深め、保護者が安心して子育てをすることができるよう支援している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員は意欲的で、相互のコミュニケーションも良好であり、毎日のミーティングで意思疎通を図りながら、支援や課題解決に取り組んでいる
	内容	利用者アンケートの結果では満足度が96%と高く、活動が利用者に受け入れられていることが示されている。職員は意欲的で、相互のコミュニケーションも良好であり、毎日のミーティングで意思疎通を図りながら、支援の準備や課題解決に取り組んでいる。さらに、子どもを中心とした運営を徹底し、日常的に多様な遊びを企画することで生活の充実を支えている。トラブル発生時にも迅速に対応する体制が確立されており、安心できる環境づくりにつながっている。子どもの健やかな成長と保護者の信頼を支える重要な基盤となっていると評価できる。
2	タイトル	傷害カード・日誌・避難訓練の活用と危険を感じた場面を日常的に共有し合い、安全体制の維持と子どもの安心を支える取り組みを進めている
	内容	クラブでは、事故や怪我の際に使用する「傷害カード」や日誌などを活用し、発生状況や対応経過を正確に残す仕組みを整えている。記録は職員間で迅速に共有され、再発防止や予防策の検討に活かしている。また、火災・地震・不審者を想定した避難訓練を学校と同様の手順で実施し、訓練後には職員全員で振り返りを行うことで対応力を高めている。さらに、危険を感じた場面を日常的に共有し、改善につなげている。こうした積み重ねにより、非常時にも落ち着いて行動できる安全体制を維持し、子どもと保護者の安心を支える取り組みを進めている。
3	タイトル	エリア内で職員が互いに気軽に相談できる環境と、子ども同士の交流が行われることにより、学童クラブの質の向上につながっている
	内容	同エリア内の新BOPとのドッジボール大会などの合同行事や児童館まつりへの出店、児童館職員による新BOPでの行事企画・運営などを通じ、児童に多様な学びと交流の機会を提供している。また、職員間でも常勤ならではの悩みなどを出し合い、情報交換やアドバイスを行う関係が築かれており、日々の困りごとや判断に迷う場面にも迅速かつ適切に対応できる環境が確保されている。この関係により職員の心理的負担が軽減され、安定した支援環境が確保されるだけでなく、職員同士の学びや情報交換が組織全体の改善や学童クラブの質の向上に直結している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	年間目標と理念を基に支援内容を体系化し、記録や助言を活かして子どもの成長を見通した一貫した支援を進めることが期待される
	内容	クラブでは、区の方針や理念を踏まえて年間目標を立て、行事や活動を通じて子どもの成長を支援している。職員は子どもの反応や季節の流れを踏まえ、活動内容を柔軟に調整し、日誌やミーティングを通して情報を共有することで、子どもの意欲や協調性を育てている。一方で、子ども一人ひとりの発達や特性に合わせた目標や支援内容が十分に整理されておらず、日々の実践との関連が明確とはいえない。今後は、年間の目標をもとに支援内容を体系的に位置づけ、記録や専門的助言を活かして、支援を一貫化する体制の構築が期待される。
2	タイトル	子どもが自分のペースで過ごせる生活の場を十分に整え、安心して健やかに過ごせる環境をつくるのが望ましいと考えられる。
	内容	運動遊びやボードゲームなど、多様な遊びが提供され、遊びを通じた学びや達成感を得る機会が提供されている。しかし、一人で考えたり気持ちを落ち着けたりできる場は十分に確保されておらず、子どもが心身をリセットし、自分のペースで過ごす場や時間は限られている。落ち着ける空間は、心の安定やストレスの軽減、主体的な遊びや学びへの意欲を育む上で不可欠である。遊びの楽しさや充実感に加え、安心して過ごせる落ち着ける空間を整備することにより、子どもは安全で安心して過ごせる場を得るとともに、健やかに成長できると考えられる。
3	タイトル	研修の充実と個性に応じた学びの機会の確保が必要であり、事務作業の負担を軽減し、ICT等を活用した業務の効率化が求められる
	内容	多種多様な職員が配置されているため、人材育成を計画的に進めるにはかなりの難しさがある。また、人的制約の中で多様な子どもに応じた遊びや生活の場を十分に提供するには、日々の創意工夫が求められている。現状の活動体制は整っているが、さらなる支援の質向上には、研修の充実と個性に応じた学びの機会の確保が必要である。加えて、事務作業の負担軽減も課題であり、ICT等を活用した業務の効率化が求められている。今後は、人材育成と業務効率化を両立させることで、子どもの成長を支える組織的基盤を一層強化することを期待する。